

令和6年度 岐阜県スポーツ推進委員研究大会

期 日 令和6年12月7日(土)

会 場 大野町総合町民センター



道の駅「パレットピアおおの」



パーシー&ローズ



大野町バラ公園

【大会冊子】

1. 大会実施要項
2. 開会式・表彰式次第
3. 県功労者表彰、伝達表彰、被表彰者名簿
4. 講師紹介
5. 研究協議

研究協議① 海津市

研究協議② 中津川市



国指定遺跡 野古墳群



国登録有形文化財「旧北岡田家住宅」



大野町特産「富有柿」

主 催 岐阜県・岐阜県スポーツ推進委員連絡協議会

後 援 大野町・大野町教育委員会

主 管 西濃地区スポーツ推進委員連絡協議会

令和6年度

岐阜県スポーツ推進委員研究大会



目 次

1	大会実施要項	2
2	開会式・表彰式次第	3
3	県功労者表彰、伝達表彰、被表彰者名簿	4～6
4	講師紹介	7
5	研究協議 研究紀要	
	<input type="checkbox"/> 研究協議①	8～15
	海津市	
	<input type="checkbox"/> 研究協議②	
	中津川市	16～23

令和6年度岐阜県スポーツ推進委員研究大会実施要項

- 1 趣 旨 県内のスポーツ推進委員が一堂に会し、地域におけるスポーツ実践活動及び研究の成果を発表・協議することで、スポーツ推進委員の資質の向上を図るとともに地域スポーツの具体的な振興方策を研究することにより、生涯スポーツの推進に資する。
- 2 テ ー マ 『いつまでも健康と生きがいを得られるぎふへ
～どこでも・いつでも・だれとでも～』
- 3 主 催 岐阜県 岐阜県スポーツ推進委員連絡協議会
- 4 後 援 大野町 大野町教育委員会
- 5 主 管 西濃地区スポーツ推進委員連絡協議会
- 6 期 日 令和6年12月7日（土）
- 7 会 場 大野町総合町民センター
揖斐郡大野町黒野990番地 TEL：0585-32-1111
- 8 参 加 者 県内スポーツ推進委員、市町村生涯スポーツ関係者等

9 日 程

12:20	13:00	14:00	15:00	16:40
受付	開会式 表彰式	講 演	【研究協議①、②】 海津市、中津川市	閉会

10 内 容

(1) 開会式・表彰式

(2) 講 演

【テーマ】『変化の社会 これからの人材育成のために
～潜在能力を引き出す～』

【講 師】「陸岐道」代表 森 光弘

(3) 研究協議

	発表市町村	発 表 テ ー マ
1	西濃地区 海津市	『みんなでスポーツ いきいきライフ』 ～スポーツの力で 人と地域が元気になるまち かいづ～
2	東濃地区 中津川市	シン・中津川市スポーツ推進委員会

開会式・表彰式次第

開会のことば

岐阜県スポーツ推進委員連絡協議会副会長

山田 幸隆

あいさつ

岐阜県スポーツ推進委員連絡協議会会長
岐阜県清流の国推進部長

堤 卓雄
市橋 貴仁

歓迎のことば

大野町長

宇佐美晃三 様

来賓紹介

大野町教育委員会 教育長

桑原 浩美 様

主催者紹介

表彰

岐阜県スポーツ推進委員功労者表彰（93名）

伝達表彰

■公益社団法人全国スポーツ推進委員連合表彰

- ・スポーツ推進委員功労者表彰（4名）
- ・30年勤続スポーツ推進委員表彰（1名）
- ・スポーツ推進委員優良団体表彰（1団体）
- ・スポーツ推進委員感謝状表彰（1名）

■文部科学大臣表彰（2名）

閉会のことば

岐阜県スポーツ推進委員連絡協議会副会長

田口 哲弥

岐阜県スポーツ推進委員連絡協議会

令和6年度岐阜県スポーツ推進委員功労者表彰

順序不同

No.	氏名	所属	No.	氏名	所属
1	若原 潔	岐阜市	26	渡部 明美	大垣市
2	水岡 英司	岐阜市	27	安田 美智子	大垣市
3	市橋 美和子	岐阜市	28	若槻 美保	大垣市
4	北川 幸司	岐阜市	29	江口 顕三	大垣市
5	阿部 哲也	岐阜市	30	坪井 朋美	大垣市
6	日石 智紀	岐阜市	31	臼井 秀典	大垣市
7	桐山 和博	岐阜市	32	櫻井 喜久男	大垣市
8	高井 裕登	岐阜市	33	赤尾 良治	養老町
9	袖木 豊	岐阜市	34	山田 竜大	垂井町
10	袖原 邦春	岐阜市	35	多和田 毅	垂井町
11	佐守 英明	各務原市	36	田中 守人	垂井町
12	浅野 俊	各務原市	37	山田 淳	関ヶ原町
13	安保 明	山県市	38	西脇 覚	安八町
14	坂本 丞史	山県市	39	加藤 由美子	安八町
15	大野 勝則	山県市	40	土屋 淳	安八町
16	溝川 哲哉	瑞穂市	41	妹尾 祐作	安八町
17	小森 勝	瑞穂市	42	一瀬 克巳	揖斐川町
18	佐々木 淳子	瑞穂市	43	松本 繁雄	揖斐川町
19	伏屋 春美	岐南町	44	清水 俊明	大野町
20	亀山 友晴	岐南町	45	桑原 弘	池田町
21	臼井 法史	北方町	46	間下 幸男	池田町
22	國枝 光子	大垣市	47	津川 裕樹	関市
23	大橋 明美	大垣市	48	今瀬 幸男	関市
24	野村 喜美代	大垣市	49	鶉飼 日和	関市
25	堀田 多枝美	大垣市	50	市原 昌子	美濃市

No.	氏名	所属	No.	氏名	所属
51	藤井 昭男	美濃加茂市	76	鈴村 和久	恵那市
52	片桐 晋	美濃加茂市	77	瀨瀬久仁子	恵那市
53	柴田 堅二	美濃加茂市	78	松井 崇	恵那市
54	藤田 睦子	可児市	79	松原 美香	中津川市
55	小谷 隆夫	可児市	80	片山 雄一	中津川市
56	井伊谷 雅明	可児市	81	田口 雄二	中津川市
57	橋本 孝良	可児市	82	加藤 弘将	高山市
58	渡辺 義信	可児市	83	下垣内 崇	高山市
59	溝口 和昭	可児市	84	岩塚 猛	高山市
60	小田 智久	可児市	85	羽根 和樹	高山市
61	村田 悦子	坂祝町	86	谷本 大輔	高山市
62	岡山 登	坂祝町	87	元垣内 孝幸	高山市
63	渡辺 理佐	富加町	88	田中 一嘉	高山市
64	吉田 春二	川辺町	89	高屋 知弘	高山市
65	加藤 孝典	白川町	90	日下部 まゆみ	下呂市
66	藤井 英二	白川町	91	青木 久美子	下呂市
67	安江 恭子	東白川村	92	丸山 三雄	下呂市
68	古田 康二	東白川村	93	後藤 健	下呂市
69	大坪 行洋	東白川村			
70	大坪 雅樹	東白川村			
71	伊藤美和子	御嵩町			
72	樋田 翔太	瑞浪市			
73	今井 義男	瑞浪市			
74	西尾 友也	恵那市			
75	清水 雄一	恵那市			

第65回全国スポーツ推進委員研究協議会

宮崎大会 被表彰者

令和6年11月14日（木）

於 ひなた武道館

1 文部科学大臣表彰

上野 英敏 (うえの ひでとし) 七宗町
三宅 祥市 (みやけ しょういち) 恵那市

2 公益社団法人 全国スポーツ推進委員連合表彰

(1) 功労者表彰 (4名)

大友 みゆき (おおとも みゆき) 瑞穂市
翠 正勝 (みす まさかつ) 本巢市
岡田 利彦 (おかだ としひこ) 安八町
大脇 晋一朗 (おおわき しんいちろう) 八百津町

(2) 30年勤続表彰 (1名)

井上 美恵子 (いのうえ みえこ) 岐阜市

(3) 優良団体表彰 (1団体)

山県市スポーツ推進委員会

(4) 感謝状表彰 (1名)

堤 卓雄 (つつみ たくお) 瑞穂市



順序不同

講師紹介

演 題

『変化の社会 これからの人材育成のために ～潜在能力を引き出す～』

陸岐道 指導者・代表 PRESIDENT

森 光弘 先生

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者 陸上競技コーチ 3



◆出身 岐阜県 池田町

◆経 歴 池田町立池田中学校 卒業
岐阜県立大垣商業高校 卒業
順天堂大学 卒業
中学校教諭（28年間）大垣西中学校教頭職にて退職

◆書籍発行

1. H21年 月間陸上競技 トレーニング講座 中学短距離 1年間連載
2. H22年 陸上競技クリニック 5月号 こんなチームで練習したい
3. H26年 月間陸上競技 中学生のための陸上競技 半年間連載
4. H27年 書籍 中学生のための陸上競技 第2号日本中体連陸上競技部発行

◆指導実績

1. 全国優勝2回 100m 200m
2. 新潟全中 4×100mR 男子2位 女子3位 アベックメダル獲得
3. 全国レベル大会入賞 延べ19種目 リレー5チーム入賞
4. 岐阜県中体連総合優勝 延べ20回

◆活動の経緯

陸上競技の選手として12年、指導者として28年関わってきた。岐阜県、岐阜県の陸上競技に恩返しをしたいと思い、陸岐道を設立。

研究協議①

海津市



『 みんなでスポーツ いきいきライフ 』
～ スポーツの力で 人と地域が元気になるまち かいづ ～

海津市スポーツ推進委員連絡協議会

研究責任者 石原 靖仁

研究発表者 山下 悦子・野津 亜希・天野 保志・徳永 真由美

I 海津市の概要

海津市は、平成17年3月、海津町・平田町・南濃町が合併して海津市が誕生しました。本市は、岐阜県の最南端に位置し、西部・南部を三重県に、東部を木曾・長良川によって愛知県に隣接しています。市の中部を流れる揖斐川以東の地域は平野が広がり、以西は急峻な養老山地とその裾野に広がる扇状地・平地からなっています。濃尾平野の西縁に延びる標高800メートルの養老山地から、木曾三川に囲まれた輪中地域にまたがる変化に富んだ地形をもつ市となりました。



養老山地の麓には、縄文時代の貝塚にはじまり、古墳や古代の集落、中近世の砂岩採石場跡や城館など、多数の遺跡と貴重な考古遺物が残っています。また、平地においては古くから木曾三川が複雑に入り組んでいたことから、輪中堤を築き、土地や家屋を水の脅威から守ってきましたが、常に洪水に悩まされた地域でありました。しかし、江戸幕府の命によって薩摩藩のお手伝い普請により行われた宝暦治水工事、明治になってオランダ人の土木技師ヨハネス・デ・レーケ氏の指導によって行われた砂防・治山工事、木曾三川分流工事により洪水の危機が緩和され、その後は有数の穀倉地帯として発展してきました。

海津市の人口は、令和6年4月1日時点で、31,815人です。気候は、冬季に伊吹おろしと呼ばれる北西風が強いものの、伊勢湾などの海洋性気候の影響を受けて概して温暖な地域です。特産物は、「南濃みかん」「海津トマト」が挙げられます。また、「国営木曾三川公園」、「海津温泉 宙舟の湯」、「千代保稲荷神社」、「南濃温泉 水晶の湯」、「羽根谷だんだん公園キャンプ場」などの観光資源にも恵まれ、年間の観光客数は約600万人であり、県内でも屈指の観光都市となっています。



羽根谷だんだん公園キャンプ場



千代保稲荷神社



国営木曾三川公園

II 生涯スポーツの現状

1 スポーツイベント

(1) 木曾三川交流レガッタ、デ・レーケ記念交流レガッタ

木曾三川（木曾川、長良川、揖斐川）の豊かな河川空間の活用を図る一環としてボート競技「地域交流レガッタ」が長良川において春と秋に開催されます。

春は、「木曾三川交流レガッタ」が開催され、木曾三川流域の市町から約400人が参加しています。この大会は、全国市町村交流レガッタの予選大会に位置づけられており、海津市スポーツ推進委員もこれまでに全国市町村交流レガッタに参加しています。

また、秋には、明治末期の木曾三川改修事業に多大な功績を残されたオランダ人技師ヨハネス・デ・レーケ氏を讃えた「デ・レーケ記念交流レガッタ」が開催され、約500人が参加しています。

海津市スポーツ推進委員は、この春と秋の大会に出場し、委員同士の交流を深めています。

(2) 長良川国際トライアスロン、木曾三川ジュニアトライアスロン

美しい清流と豊かな自然に囲まれた会場で長良川国際トライアスロン、木曾三川ジュニアトライアスロンが開催されています。この大会には、県内外から多くの方が海津市を訪れ、トライアスリートたちの熱い戦いが繰り広げられます。

また、大会運営には、多くのボランティアが参加し、大会を盛り上げています。

(3) 石津御嶽登山競走

海津市南濃町の石津御嶽登山道を一気に登るスポーツイベントが毎年11月頃に開催され、子どもから高齢者まで全世代が楽しく参加しています。

小学生は、5合目までの約1.5km、中学生以上は、頂上を目指す約2.5kmのコースを走り、年代や男女別のカテゴリーに分かれてタイムを競います。濃尾平野から伊勢湾が一望できる頂上のゴールを目指し、選手たちは坂道を駆け上がっています。

この大会は、全世代が楽しみながら登り、山に親しみ、気持ちのいい汗を流すなど、市民の健康づくりに寄与する大会となっています。

初回の大会には、海津市スポーツ推進委員もボランティアで大会運営に参加しました。

2 中学校休日部活動の地域移行について

本市では、令和4年8月から休日部活動を地域に移行しました。生徒は休日の部活動に代わり、地域スポーツクラブ活動を行っています。

総合型地域スポーツクラブの「一般社団法人南濃スポーツクラブ」と「スマイルクラブこん平田」の2つのクラブが共同で「海津市中学校地域クラブ」（以下、地域クラブという。）を設立し、中学校休日部活動の地域移行の実施主体となり、生徒にとって望ましい持続可能なスポーツ・文化活動の実現を目指し、運営を行っています。

また、指導者の確保、平日部活動との連携が必要不可欠であるため、市スポーツ協会、中学校と連携し、指導者の確保と平日部活動や中体連等の大会出場に関する情報共有を行っています。

平日部活動の競技種目を基本とし、休日に活動したいと希望する生徒は、バスケットボールクラブ、バレーボールクラブ、ソフトテニスクラブ、卓球クラブ、軟式野球クラブ、ソフトボールクラブ、剣道クラブ、陸上クラブ、サッカークラブ、文化クラブ（パソコン）に加入しています。

今年度（5月27日現在）は、357人が海津市中学校地域クラブに加入し、休日の地域スポーツクラブ活動で仲間とともに目標に向かって日々、練習等に励んでいます。



野球クラブの投球練習



バスケットボールクラブのパス練習



ソフトバレーボールクラブの投球練習

3 総合型地域スポーツクラブ

市内には、「一般社団法人南濃スポーツクラブ」と「スマイルクラブこん平田」の2クラブがあり、市民にスポーツに親しむ機会を提供しています。

平成21年2月に平田中学校地区に「スマイルクラブこん平田」が設立されました。「スポーツを通して子どもからお年寄りまで生き生き暮らせる元気で明るい平田町をめざす」を理念に、「こころから (Heartful) くつろぐ (Relax) いっしょに (Together)」をスローガンに、いつでも、どこでも、だれでも、いつまでも自分の年齢や体力、志向にあったスポーツの楽しみと健康の保持・増進ができるような環境を提供しています。

「スマイルクラブこん平田」の実績を参考に、平成23年3月に城南中学校地区に「南濃スポーツクラブ」が設立されました。「南濃スポーツクラブ」では、皆さんにスポーツに親しむ機会を提供し、スポーツの楽しさを知ることや仲間同士で健やかな時間を過ごすことをねらいとしてクラブを運営しています。

4 スポーツ施設及び学校体育施設

海津市の体育施設及び学校体育施設は、41施設あり、令和5年度は約28万人の利用がありました。南濃体育館と平田体育館は、グラウンドとテニスコートが隣接し、総合的な体育施設として利用されています。また、海津市市民プールは、屋内及び屋外の施設を有し、年間と通じて利用することが可能です。指定管理によるスイミング教室、アクアビクス教室、各種カルチャー教室などが開かれ、多くの方に利用いただいています。

海津市には、国営木曾三川公園中央水郷地区の施設である長良川サービスセンターでは、長良川での水面レクリエーション、河川敷での各種スポーツ、センターハウス内ではレクリエーションや各種スポーツ教室が行えるようになっています。



南濃体育館



市民プール



長良川サービスセンター

III 海津市スポーツ推進委員会の概要

海津市スポーツ推進委員は、市の委嘱を受けた男性8名、女性8名の計16名で活動しています。委員は、海津地区、平田地区、南濃地区からスポーツに深い関心と理解がある方を選出し、委嘱しています。

組織としては、会長1名、副会長2名を選出して、会を運営しています。毎月第3水曜日は定例会を開催し、各地区で開催している軽スポーツ教室の活動状況を話し合うとともに、スポーツ行事の企画・立案を行っています。また、委員は市スポーツ協会や総合型地域スポーツクラブなど地域スポーツ団体等に所属する者が多く、地域スポーツの振興に尽力しています。

しかし、近年、スポーツ推進委員の退任が続き、新任委員の就任が追い付いていない状況となっています。

<海津市スポーツ推進委員における人数の推移>

	H28～29年度	H30～R1年度	R2～3年度	R4～5年度	R6～年度
男性	12人	12人	12人	11人	8人
女性	8人	8人	8人	8人	8人
合計	20人	20人	20人	19人	16人

IV テーマ設定の理由と研究のねらい

海津市では、少子高齢化と人口減少が進んでおり、各地区で行われていた体育大会も地域の担い手不足により開催を中止する地区が多く、スポーツを通じた地域内交流の機会が失われつつあります。

また、令和5年度に海津市健康福祉部健康課が行った「健康づくりと食生活についてのアンケート調査」において、身体活動・運動に関する調査からは、子育て世代・働く世代の運動不足が顕著になっている結果でした。さらに、運動をしていないと回答した人に対して、運動を行うために、どんなきっかけが必要であるかの問いに、「身近で運動が行える施設や場所がある」と回答した人が39.8%と最も高い数値となりました。

このアンケート調査結果から、市民の皆さんは、気軽に身体を動かすことができる機会や環境を必要としていることが明らかとなりました。

これらの課題を解決するために、海津市スポーツ推進計画の基本理念である「みんなでスポーツ いきいきライフ ～スポーツの力で 人と地域が元気になるまち かいづ～」をテーマとして設定し、気軽にスポーツを楽しむ機会の創出を研究のねらいとして活動することとしました。

V 実践活動

1 実態調査(現状等)

令和5年に実施した健康づくりと食生活についてのアンケート調査結果から、「日頃から日常生活の中で、意識的に身体を動かすなどの運動を心がけている」の割合は、71.8%と前回調査(平成28年)よりも増加していました。また、男女ともに年齢が上がるにつれ、「意識的に身体活動に心がけている」の割合が高く、男女の60歳代、70歳代の年代で高くなっていました。

健康維持・増進のために「意識的に運動している」の割合は、15.5%と前回調査18.3%より、2.3ポイント減少していました。

年代・性別では、10・20歳代、60歳代、70歳代以上の男性が高く、40歳代の男性、30～50歳代の女性が低くなっていました。働き盛りの年代、子育て中の年代では、「意識的に運動している」の割合が低くなっていました。

この調査結果から、ライフステージに応じた継続的に運動に取り組める仕組みづくりや働きかけが必要であることが明らかとなりました。

2 実践活動

(1) 軽スポーツの普及

①軽スポーツ教室

海津地区、平田地区、南濃地区において、「軽スポーツ教室」を毎月2～4回開催し、市民のだれもが気軽にスポーツを楽しむ機会を提供しています。

海津地区では主にバレーボールとタスポニー、平田地区では主にバドミントンとタスポニー、南濃地区では主にソフトミニバレーボールを行っています。

また、スポーツ推進委員も活動に加わり、参加者が活動を楽しめるよう努めています。

加えて、コロナ禍においては、20歳代の男性・女性がスポーツ活動できる場所を求め、軽スポーツ教室に多くの方が参加しました。

このことから、気軽にスポーツを楽しめる機会を提供することは、継続的に運動に取り組める仕組みの一つとなり、今後も必要であると考えます。

<軽スポーツ教室参加者の推移>

	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
参加者数	1,415人	515人	1,376人	2,019人	1,629人



バレーボール（海津地区）



バドミントン（平田地区）



ソフトミニバレー（南濃地区）

②タスポニー交流大会

軽スポーツ教室でタスポニーを継続的に取り組み、練習に励んでいる方が練習の成果を試す場として、平成25年からタスポニー交流大会をスポーツ推進委員が主催で開催しています。市内外のタスポニー愛好家がこの大会に参加し、日頃の練習の成果を発揮し、また、参加者同士交流を深めています。



エンジョイダブルスの試合



テクニカルダブルスの試合

③ピククルボール体験会

気軽に参加できるスポーツの機会を提供する取り組みとして、米国で近年急成長している「ピククルボール」を新たな軽スポーツの種目として取り入れてはどうかと委員から提案があり、簡単にラリーが続くことが大きな魅力とされる「ピククルボール」を取り入れることとしました。

まずは、海津市スポーツ推進委員連絡協議会の定例会において、委員が「ピククルボール」を体験しながらルールを学びました。

さらに、タスポニー交流大会において、ピククルボール体験会を開催し、大会参加者の多くの方が参加しました。参加者からは、「テニスと同じようにラケットをかぶせるとボールが飛ばない」、「運動量が多い」「難しいけど楽しい」などの感想をいただきました。

今後は、「ピククルボール」を新たな軽スポーツとして位置づけ、この競技を普及したいと考えています。



定例会でピククルボール研修会を実施



タスポニー交流会で体験会を実施

④モルック体験・交流会

令和4年の西濃地区スポーツ推進委員前期研修会において、「モルック」を実施しました。西濃地区のスポーツ推進委員の皆さんとモルックのルールを学び、モルック普及の一助となる研修会となりました。

この前期研修会を機に海津市においてもモルックを普及しようと毎年10月に開催される産業感謝祭・健康展で、モルック体験会を開催しています。昨年も開催し、来場した多くの園児、小学生、中学生がモルックに興味を持ち、スポーツ推進委員の指導のもとモルックを楽しく体験しました。

また、今年度のタスポニー交流大会においては、モルック体験会を開催し、参加者からは「思うように投げられない」、「モルックを狙うのが難しい」などの感想をいただきました。

今後も気軽にモルックを体験できる機会を提供していきたいと考えています。

⑤軽スポーツ指導

自治会、老人クラブ、スポーツ少年団など各種団体からスポーツ推進委員による軽スポーツ指導の依頼があった場合、スポーツ推進委員が出向き、カローリング、ペタンク、モルックなどの軽スポーツの指導を行っています。

コロナ禍においては、各種団体が活動を自粛していたため軽スポーツ指導の依頼がありませんでした。新型コロナが五類に移行してからは、老人会、子ども会・育成会などから依頼があり、軽スポーツ指導を行い、市民に軽スポーツの楽しさを体験する機会を提供することができました。今後も軽スポーツの普及に努めていきます。



夏休みに子ども会がペタンク体験



夏休みに子ども会がモルック体験



老人クラブがボッチャを体験

(2) 健康意識の向上

体力測定

毎年10月に開催される産業感謝祭・健康展と併せて、スポーツ推進委員による体力測定を行っています。イベントと併せて開催することで、多くの方に参加いただき、自分の体力を知る機会となっています。体力測定では、スポーツ庁の新体力テストのテスト項目である握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、急歩、立ち幅跳びの8種目とロコモテストを行っています。体力測定の結果をもとに、継続的な運動が大切であることに気づき、軽スポーツ教室に参加する市民が増えることを期待するところです。

また、多くの方が来場される機会となるため、スポーツ推進委員の活動を紹介するなど、スポーツ推進委員のPR活動も同時に行っています。



産業感謝祭で体力測定を実施（立ち幅跳び、長座体前屈、10m障害物歩行）

(3) パラスポーツの普及

令和5年度には、岐阜県身体障害者福祉協会海津支部が主催する「ふれあいボッチャ大会」にスポーツ推進委員が参加し、ボッチャの指導を行いました。岐阜県身体障害者福祉協会海津支部と共同でパラスポーツを普及する取り組みは初めてでしたが、参加者と一緒にボッチャを楽しみました。

今後も海津市身体障害者福祉協会海津支部と連携を図り、パラスポーツの普及に努めたいと考えています。



ふれあいボッチャ大会（岐阜県身体障害者福祉協会海津支部の皆さんと実施）

海津市スポーツ推進委員連絡協議会では、軽スポーツ教室、タスポニー交流大会、モルック体験会、軽スポーツ指導、体力測定を行っています。中心となる活動は、各地区で毎週開催している軽スポーツ教室です。

この軽スポーツ教室では、これまでに、ソフトバレーに参加していた市民が中心となりソフトバレー協会を立ち上げ、現在も市スポーツ協会に加盟してソフトバレーを続けています。また、現在、取り組んでいるタスポニーについても将来的には参加している市民が中心となって、協会を立ち上げ地域でスポーツ活動を自主的に行えるよう支援していきます。

軽スポーツ教室を毎週決まった曜日、決まった時間に開催し、スポーツ推進委員が時間と体調の管理をしながら運営することにより、誰もがいつでも参加できる教室にすることで、市民が参加しやすく、定期的に運動をする習慣に結びついていくのではないかと考えます。

また、新たなスポーツとして、ピックルボールに取り組み、新たなスポーツを体験する機会を提供することができました。

この新たに取り入れたピックルボールが、市民の皆さんにとって気軽にスポーツを楽しむきっかけの一助となることを期待するところです。今後も軽スポーツ教室やスポーツイベント等でスポーツを紹介し、市民に親しんでいただけるスポーツになるよう取り組んでいきたいと考えます。

加えて、市民の皆さんが自分の健康状態を把握し、健康に対する意識を高めるきっかけとなる体力測定を今後も実施し、市民の皆さんの健康寿命の延伸につながればと考えます。

VI 今後の課題

軽スポーツ教室参加者の年代・性別を把握したところ、働き盛りの年代、子育て中の年代の参加者が少なく、実態調査と同じ結果であることが明らかとなり、働き盛りの年代、子育て中の年代に対して、ニーズに合ったスポーツ活動の機会を提供できていないことが課題となりました。

また、障がいのある人もない人も誰もがスポーツに参加できる機会の創出については、取り組むことができなかつたため、今後、関係機関と連携を図りながら、ボッチャ体験会などの実施に向け定例会等において委員で協議を重ねたいと考えます。

今後もライフステージに応じた運動に取り組める仕組みづくり及び働きかけができるようスポーツ推進委員が継続的にスポーツの機会を提供し、スポーツの力で人と地域が元気になるまちを目指して、「継続は力なり」の言葉を信じて活動していきます。

研究協議②

中津川市



『シン・中津川市スポーツ推進委員会』

中津川市スポーツ推進委員会

研究責任者 長尾 一政

研究発表者 篠原 美由紀、桂川 明代、田口 雄二

I 市町村の概要



画像1 中津川市の位置図

中津川市は岐阜県の東濃東部に位置し、総面積676.45km²に人口約74,000人を擁しています。約19年前の平成17年2月には1市7町村による合併を行い、現在は旧町村を基準とする13地区で構成される市となりました。

中津川市は総面積の8割が森林であり、南部には日本百名山に数えられる恵那山(2191m)、北部には森林浴の森日本100選に選定されている付知峠がある自然豊かな市で、栗きんとんをはじめとした和菓子や五平餅、夏秋トマト等の特産品も有名です。

歴史的には、国指定史跡の苗木城跡があり、城文化の興隆がありました。また、東山道、中山道、飛騨街道などが交わる宿場町としても栄え、地歌舞伎、木遣り音頭、杵振り踊り、花馬など多くの伝統文化が受け継がれています。現在はリニア岐阜県駅と車両基地の建設が進められており、新たな交通の要として発展が期待されます。

スポーツの分野では、全国で活躍するレスリング競技ジュニア選手の輩出や東京2020オリンピックにおいて、ホストタウンであるアメリカのレスリングチーム合宿交流を実施しました。また、カヌー競技では中津川市出身の選手がパリ2024オリンピックに出場しました。

II 生涯スポーツの現状(組織・施設等)

中津川市は『スポーツで人と地域が かがやくまち なかつがわ』という基本理念のもと、「一市民1スポーツの推進」「スポーツの振興による地域コミュニティの維持・活性化」「スポーツ環境の整備」といった取り組みを行っています。



画像2 中津川市の地歌舞伎



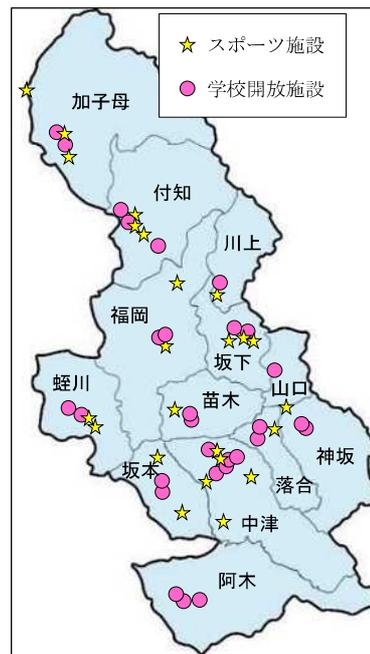
画像3 カヌー競技の様子

1 中津川市のスポーツ関連施設

中津川市には36個所の公共スポーツ施設と29校の学校開放施設があります。合併した市町村の施設を引継いだことで拠点的な施設が多くあることが特徴であり、最大の拠点である中津川公園には競技場、野球場、テニスコート、多目的グラウンド、スケートパーク、東美濃ふれあいセンター（多目的アリーナ、歌舞伎ホール、会議室等）といった施設が集約されています。市内にB&G海洋センターが3館あるのも特徴的です。



画像4 中津川公園



画像5 スポーツ関連施設の配置図

2 スポーツ関連組織

主な組織としては、スポーツ競技団体や地域支部を取りまとめる中津川市体育協会や、5つの総合型地域スポーツクラブがあります。この他にも多様化する人々のスポーツに対する需要に応えるため、多様な組織と連携しながら取組みを行っています。

3 スポーツイベント

市内の主なスポーツイベントとしては、中津川公園を会場とする清流木曾川中津川リレーマラソン大会があり、今年度は173チーム1259人の参加がありました。スポーツ推進委員会も大会実行委員会の一員として、会議参加や当日スタッフなど運営に協力しています。

また、スポーツ推進委員会の主催行事としては、例年10月頃に開催する各種スポーツ体験イベントの「スポーツフェスティバル」、例年3月に開催する「中津川市ビーチボール大会」があります。コロナ禍の開催中止を経て再開が困難になったイベントもありますが、再開したイベントでは、一時は参加数が大きく減少しつつも、最近では参加数が回復してきており、以前の賑わいを取り戻しつつあります。



画像6 清流木曾川中津川リレーマラソン大会



画像7 スポーツフェスティバル

Ⅲ 中津川市スポーツ推進委員会の概要

中津川市スポーツ推進委員会（以下、中津川市スポ推）は、合併前の旧中津川市7支部に旧町村8支部を加えた15支部から選出された合計42名で、「一市民1スポーツ」をスローガンに活動しています。組織としては執行部と軽スポーツ部会、ビーチボール部会の2つの部会で構成し活動を行っています。（表1）

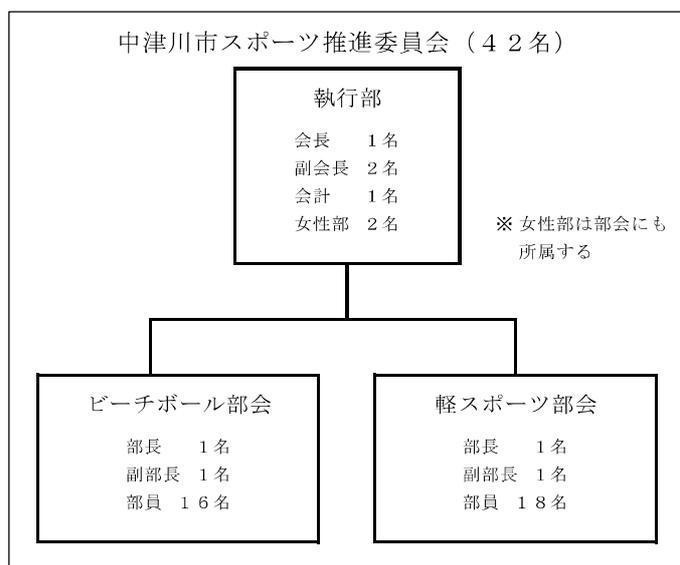
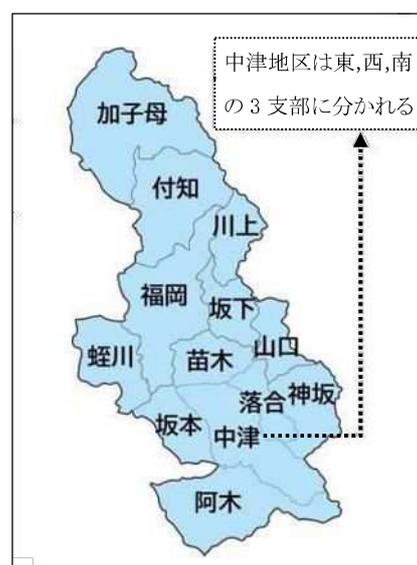


表1 中津川市スポーツ推進委員会の組織図



画像8 中津川市内15支部の区分け

軽スポーツ部会は老若男女が広く取り組めるスポーツの研究企画運営を担当しています。直近では流行しているモルックに着目して活動を進めています。

ビーチボール部会は、軽スポーツの中でもビーチボールという種目を焦点にあてて、教室や大会を開催するなどして普及活動を進めています。

中津川市スポ推の全体活動としては、毎月第3水曜日に行う定例会、ビーチボール大会等のイベント、各種スポーツ教室など月に2回程度の頻度で活動を行っています。定例会では会議のほか、救急救命講習会や軽スポーツ勉強会、スポーツ教室なども実施しています。

各地域支部の取組みとしては、15支部それぞれで行うスポーツ教室やスポーツイベントの企画運営、協力などの活動を行っています。

Ⅳ テーマ設定の理由と研究のねらい

中津川市スポ推は、平成25年度の東海四県研究大会で「スポーツ推進委員を考える～中津川市からの提案～」というタイトルで、スポーツ推進委員の資質向上をテーマにした発表を行いました。今回は「スポーツ普及活動」と「委員の資質向上」という2つのテーマで前回の発表を振り返りながら、中津川市スポ推の取組みの経過と成果を発表します。

Ⅴ 取組みの経過と成果

1 スポーツ普及活動について

(1) 軽スポーツの普及

中津川市民のスポーツ実施率向上などの目的から、軽スポーツの普及に取り組んでいます。

以前から中津川市スポ推は、軽スポーツや競技スポーツを体験できる「スポーツフェスティバル」、出前講座、20種目以上ある軽スポーツ用品の貸出などの取組みで普及活動を行っています。



画像9 出前講座 ボッチャ教室



画像10 モルック教室

近年では2点の課題があります。それは軽スポーツ用品の経年劣化とイベントの再開が困難なことです。特に市の健康福祉イベントとの共催で平成8年から行っていた「スポーツフェスティバル」は、コロナ禍を機に健康福祉イベントの規模が縮小したことで、集客数の減少と運動スペースが無くなったことを理由に共催が困難になりました。単独での開催も困難なことから、現在は「スポーツフェスティバル」を開催出来ておらず、対策や代案を検討中です。

(2) インディアカの普及

中津川市スポ推では、昭和60年から平成20年までの23年間でインディアカの普及活動を行っていました。平成15年にはインディアカ協議会が立ち上がり、スポーツ推進委員会のサポートもありつつ、平成20年には協議会が独立し自主運営の体制に移行しました。

しかし、近年では競技人口の減少や担い手不足等により協議会の運営に苦勞する状況になっています。

スポーツ推進委員の職務である「組織の育成を図ること」に関して、独立後の組織との関わり方が課題であります。



画像11 インディアカ

(3) ビーチボールの普及

中津川市スポ推では、インディアカ独立後の新たな取組みとして、ビーチボールに着目しました。

ビーチボールはビニール製の柔らかいボールを使う4人制のバレーボールです。バドミントンコートで行うため取組みやすく、楽しんで運動できる種目です。

スポーツ推進委員会で勉強会と検討を行い、平成21年から普及を開始しました。その後、教室の開催や地区での普及活動を経て、平成23年より「中津川市ビーチボール大会」を開催しています。



画像12 ビーチボール大会

普及を続けて、ビーチボールが広まり始め大会参加者が徐々に増加したところでしたが、コロナ

禍の影響で一時は大会を中止していました。令和4年度より大会を再開し、令和5年度の第10回ビーチボール大会には29チーム174名に参加いただくことができ、ビーチボールという種目が中津川市にシン(浸)透した手応えを感じました。(表2)

表2 ビーチボール大会の参加数

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
チーム数	33	32	コロナ禍 中止			18	29
トップ(上級)	8	8				部門	8
ハッスル(中級)	20	16				無し	12
エンジョイ(初級)	5	8					9
人数	220	220				107	174



(4) 普及活動に関する現状分析

今回は、中津川市スポ推のスポーツ普及活動を3項目紹介しました。

スポーツフェスティバルやインディアカの例からは事業の継続性という課題が表面化しました。スポーツ推進委員には人手、活動時間、事業費に限りがありますので、その中で需要を汲み取り、事業の継続、廃止、新設を行う必要があると考えます。

中津川市スポ推では、様々なスポーツの機会を創ることで多くの市民がスポーツを実施できるようになることを目的に活動しています。ビーチボールは15年程の活動を経て徐々に市民へ普及してきたと感じています。今後はビーチボールを独立させ、新たな種目を普及させたいと考えています。ビーチボールを実践する方は若い年齢層の方が多いため、こういった方々の力を借りながら競技組織の設立を促し、インディアカでの経験も活かしながら、独立後も滞りなく組織が運営される方法を検討しています。

また、ビーチボール独立後の新たな普及種目としてモルックを候補に取り上げました。現在は地区でモルック教室を開催するなど試験的に取組みを行い、活動を前シン(進)させています。

2 スポーツ推進委員の資質向上に向けて

スポーツ推進委員には「実技の指導」「その他スポーツに関する指導助言」「連絡調整」という役割があります。時代の変化により、人々のニーズの多様化に伴い、スポーツ推進委員にも様々な資質が求められます。

中津川市スポ推の前の発表では、“研修会の参加率向上”と“魅力的な研修会”をテーマに提案・発表しました。今回は中津川市スポ推の資質向上に向けた取組みの経過と近況を発表します。

(1) 参加率の向上について

過去の中津川市スポ推では、定例会や研修会への参加率の低さが課題でした。市町村合併後ということもあり、活動への参加がしやすいよう委員の親睦を深めることから始めました。また、スポーツ推進委員を推薦頂く体育協会の各地域支部長に対し、スポ推行事に多く参加できることも考慮して推薦頂くように依頼しました。こういった取り組みによって、平成20年頃から参加率が上昇し始め、前回発表時の平成25年度には定例会参加率が約80%、研修会への参加率が約50%に増加しました。

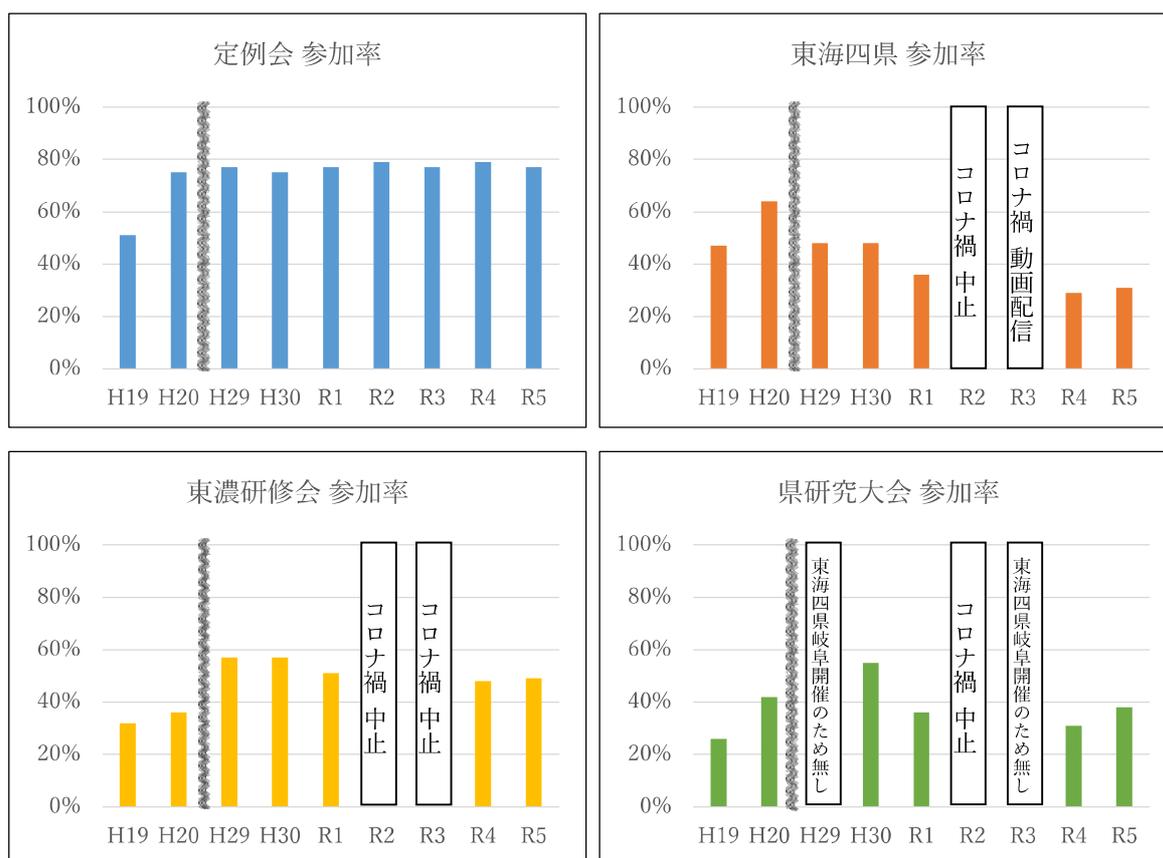
令和6年度現在も定例会の出席率は約80%ですが、研修会への参加率は30～40%程度に低下しています(表3)。ただし、研修会の欠席理由の多くは仕事や用事などで参加が困難なものであるため、参加率を上げる対策ではなく、欠席者でも研修会等から何かを学び取れるような対策が必要と考えます。中津川市では後日の定例会で研修会の資料配布とレポート報告を行っています。参加者が研修会の内容や要点、感想を報告して、欠席者に対して研修内容の共有を行っています。

表3 各種参加率

	H19	H20	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	H29～R5 平均
定例会	51%	75%	77%	75%	77%	79%	77%	79%	77%	77%
東濃研修会	32%	36%	57%	57%	51%	中止	中止	48%	49%	52%
県研究大会	26%	42%	※	55%	36%	中止	※	31%	38%	40%
東海四県	47%	64%	48%	48%	36%	中止	動画配信	29%	31%	38%

※東海四県が岐阜県開催のため、県大会は開催無し。

※R2～3はコロナ禍のため中津川市の行事はほぼ中止。定例会も2～3回のみ開催。



(2) 魅力的な研修会について

資質向上に繋がる研修会とするためには、研修会の内容充実も重要です。以前には、より良い内容を考えて提案し、目的をもって研修会に参加することで資質向上に繋がるという内容を発表しま

した。

実際に平成25年度に中津川市スポ推の内部で行ったアンケートでは、資質向上に繋がる講演や実技講習が良いという意見が合計8割ありました。実技を実践することで競技の良さや課題が鮮明に感じられ研修の質が上がると思います。そこで、東濃地区スポーツ推進委員連絡協議会に実技をより取り入れる提案しました。

近年の東濃地区研修会では、他市混合のグループでモルック、スナッグゴルフ、コグニサイズ等の実技講習やグループディスカッションと情報交流など、交流を深めながらの研修を実施し、スポーツ推進委員の資質をシン(伸)長させています。

表4 東濃地区スポーツ推進委員研修会

年度	前期		後期	
H23	午前	グループミーティング	午前	松永敬子先生(龍谷大学)講演
	午後	体力・運動能力テスト	午後	バランスボール教室
H24	午前	松永敬子先生(龍谷大学)講演	午前	中津川市研究発表
	午後	斉藤三郎先生(大塚製薬)「水分補給について」講演 体力・運動能力テスト	午後	山田城満先生(助健堂)スポーツ整膚
H25	午前	研修会報告・グループミーティング	午前	台風接近により中止
	午後	牧内隆雄先生(健康運動指導士)実技	午後	
H26	午前	倉持梨恵子(中京大学)テーピング	午前	松永先生(龍谷大学)「スポ推の在り方」講演
	午後	体力・運動能力テスト	午後	松永先生(龍谷大学)アイスプレーキング、ろくむし
H27	午前	グループミーティング	午前	恵那市研究発表
	午後	牧迫飛雄馬先生「コグニサイズ」講演	午後	ポールウォーキング講習
H28	午前	能勢博先生(信州大学)「インターバル速歩等」講演	午前	瑞浪市研究発表
	午後	竹田理恵子先生(藤枝市スポ推)「健康体操」実技	午後	勅使河原未央先生(岐阜県レク協) ワンバウンドふらばーるバレーボール実技
H29	午前	西本裕先生(岐阜大学)「障がい者とのかわり方」講演	午前	中窪翔先生「コグニサイズ」実技
	午後	障がい者と一緒楽しめるスポーツ ～フライングディスク、ボッチャ～実技	午後	土岐市スポ推 ワンバウンドふらばーるバレーボール実技
H30	午前	初任者研修・経年度研修	午前	御嵩町スポ推「ベアーリング」実技
	午後	岡田康邦氏(日本キッズ体協)「ペップトーク」講義	午後	坂野清隆氏「ACP」実技
H31	午前	多治見市研究発表	午前	藤野良孝先生「オノマトペ」
	午後	多治見市スポ推「インターバル速歩」	午後	アイディアC体創協会「アイディアC体創」
R2	新型コロナウイルス感染症感染拡大により中止			
R3	新型コロナウイルス感染症感染拡大により中止			
R4	午前	初任者・経年者研修	新型コロナウイルス感染症 感染拡大により中止	
	午後	多治見市スポ推「モルック」実技		
R5	午前	リーダー養成講習会報告(瑞浪市・水野委員)	午前	岩見光洋氏・片田洋一郎氏「部活動の地域移行」講義
	午後	瑞浪市スポ推「スナッグゴルフ」実技	午後	深尾由美氏「コグニサイズ」実技

VI 今後に向けて

今回は「スポーツ普及活動」と「委員の資質向上」という2つのテーマで発表を行いました。社会情勢が変化する中で、私たちはスポーツについて広く学んで資質を高め、普及活動を進めていく必要があります。

中津川市スポ推では令和6年4月に執行部の交代がありました。長期に執行部を務めた役員が交代し、シン(新)体制で取組みを行っています。メンバーが世代交代することで、新たな視点で取組み、新たな層の方々への働きかけが期待できます。多くの方にスポーツ推進委員会の活動を知っていただき、より多くの方々にスポーツを实践して頂けるよう取組みを進めたいと考えています。